

# 『一心千里』

永田 隆一

走っていけば、

見えてくる



第44回

名も無き男たちの汗、それを支えた名も無き女たちの夢……。それを名も無きテロリストたちが無にした……。これが一生？

一生がこれ？ 先日のアルジェリア、イナメナスのプラントでの惨事を耳にした筆者は、こういった言葉が心に浮かんできました。

そして後日、くだんのプラント企業の代表の方がアルジェリア政府の対応に「全力を尽くしてくれた」とコメントしました。筆者は、瞬間的に「冗談じゃない」と怒りを覚えました。しかし、1960年代からアルジェリアの事業に携わって

きたこのプラント会社にしか理解できない理由があり、このコメントになったのかもしれないと思

った。このプラント会社にしか理解できない理由があり、このコメントになったのかもしれないと思

## 名も無き男たちの汗、女たちの夢

### 商売の勝敗はトップの覚悟で決まる

い直して、とてもやるせない気持ちになりました。

また、この代表の方は「より強い警備体制を整えるよう訴えて建設再開の協議に入った。自社としても何ができるのかを検討したい」とコメントしました。

筆者、瞬間的な怒りその2。「会社の現地スタ

面があると改めて感じました。

#### 《変革と行動の時代》

昨今は、「変革と行動の時代」であると筆者は考えます。世の中の経済の前提が大きく変化しているという、いわばゲームそのもの、ゲームのルールが変化している時代です。企業も学校も家庭

戦を張る行動が顕著。③ただひたすら、自分の生活の安全を守ろうとする人達。変革が通り過ぎるのをひたすら待つ行動が顕著。

筆者の観察では、組織内の人口比率は、①が1人、②が10人、③が100人。「1対10対100」であります。そして組織内で生き残る確率は、①

でも、組織では日々変革が要求される時代であります。その際、人間は大きく3つのグループに分けられます。

①変革を機会と捉える人達。手を変え、品を変え、果敢にチャレンジする行動が顕著。②変革をリスクと捉える人達。変革がいかにリスクがあるか、データを活用した論

が10%、②が80%、③が50%であります。とても興味深いデータです。しかし、仕組みはいたってシンプルです。①の方々が変革を機会と捉えて行動します。そして失脚。しかし、その行動が芽吹き始めた事業を②の方々が遂行してサバイブする。③は、大きな変革の波に揺られて泳ぎ続け

ることが出来る人が半分。あくまでも筆者の分析です。

#### 《経営者の本質》

ベンチャー企業や中小企業の社長は、使う言葉が素敵です。

「バカたれ、中小企業に盆も正月もあるものか。世間が休んでいる時に働かなければ、いつ働くんや」「売り上げの保証がどこにあるんや、全社員、30%の時間で新しいビジネスのアイデアを考えろ、そして提案しろ、責任はないんや、その新しいビジネスがいくらかは、社長の俺が責任を持って行動する」。

「500万円以上の予算は俺に稟議を持ってこい。認めてやるから自腹を切れ。自分の財布から金を出すちゅう視点で考えろ」「商売？ 技術はあって当たり前、取れるかどつは覚悟で決まるん

や」。大きな組織でも創業者が影響力を持っている企業は、意外と中小企業と同じ、当たり前前判断ができる場合が多いです。そういう企業の顧客満足度は総じて低いです。お客様の満足する範囲内で、最高の価格でしか取引をしないからです。

かたや創業者の影響力がなくなったサラリーマン社長の企業は、総論が多く、取り巻きも茶坊主ばかり多くなる傾向が高いのであります。こういう企業の顧客満足度は高い傾向にあります。下げなくて良い価格を下げ、しなくて良いサービスを提供するからです。

筆者は、大善は非情に似たり、自らの道を拓くために人生を賭けたビジネスマンに惹かれます。そして今日も、ともに考えて行動します。

（毎月掲載）